

平成 20 年度 博士後期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

「精神障害者雇用の態度尺度評価・改訂版」の信頼性と妥当性の検討—運輸業者を対象として—

学位の種類: 博士 (学術)

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 06996601

氏名: 小澤 昭彦

(指導教員名: 菊池 恵美子 教授)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

【目的】本研究は、運輸 7 業種の事業主を対象に、「精神障害者雇用に対する事業主の態度尺度評価・改訂版」(revised Attitudes toward Employment of Psychiatric Disability scale: 以下、ATEP II) の信頼性と妥当性を検証し、さらに態度形成要因を把握することを目的とした。

【方法】運輸業における常用労働者数 56 名以上の企業 2,500 社の人事担当者 2,500 名を対象とした。回答方法は、ATEP II がリカート法による 6 段階評定とし、フェイスシートは自由記述法と単一回答法とした。内容妥当性の検討は、職業リハビリテーションの研究者と実践者 9 名に依頼し、パイロットスタディは、運輸業者 35 社に実施した。分析方法に関して、構成概念妥当性は、重みなし最小二乗法、プロマックス回転による因子分析を行い、抽出された各因子と ATEP (小澤・八重田, 2007) の 4 因子とを比較した。ATEP II の信頼性は、内的整合性と再検査信頼性により検証した。また、態度形成要因は、t 検定 (両側) と分散分析により検討した。

【結果】郵送調査の結果、2,498 社のうち有効回答は 478 社であった (有効回答率 19.1%)。56 項目に対して探索的因子分析を行い、固有値 1 以上の 9 因子が抽出され、項目の内容から、第 1 因子「精神障害者の雇用に対する意欲」、第 2 因子「精神障害者の活動制限」、第 3 因子「精神障害者に対する信頼」、第 4 因子「精神障害者の受け入れ態勢作りの意欲」、第 5 因子「精神障害者の注意配分」、第 6 因子「精神障害者に対する危険視」、第 7 因子「精神障害者の雇用管理に対する自己効力」、第 8 因子「精神障害者雇用のメリット」および第 10 因子「能力重視の採用基準」と解釈した。ATEP II の α 係数は、.81~.93 で、83 名の回答者に対する 2~6 週間後の再検査信頼性係数は、.67~.86 であった。さらに、態度形成要因として取り上げた 9 変数 (業種、運輸業以外の業種の有無、常用労働者数、雇用中の障害者数、常用労働者の雇用継続期間、学歴に関する必要条件、事業主の年齢、管理職か否か、および障害者の雇用に関する経験) を説明変数に、ATEP II の 9 因子別の下位尺度得点を基準変数にして、平均値の比較を行った。その結果、業種を除くすべての説明変数で、ATEP II のいずれかの下位尺度に有意差があった。

【考察】探索的因子分析の結果から、9 因子から成る ATEP II の妥当性が支持され、下位尺度得点の比較からも、全下位尺度で ATEP II の妥当性が支持された。また、 α 係数と再検査信頼性係数から、内的整合性と再検査信頼性も支持された。しかし、構成概念妥当性の検証には確認的因子分析の実施が必要であることや、有効回答率が低いことから、ATEP II の 9 因子モデルの一般化については、さらに検討が必要と考えられる。